

モデル	処理程度	複式仕訳 処理方法	複式仕訳に係る システム連動
基準モデル	期末一括 がほとんど	・財務会計システムに入力した会計伝票データを伝票単位で出力し、公会計システムに一括して取り込み、変換される仕組み(勘定科目変換プログラムに基づき複式仕訳を実施)	別システム処理 がほとんど
東京都方式 大阪府方式	発生の都度 (取引ごと)	・伝票入力に係る同一画面で、複式情報をあらかじめ絞り込まれた選択肢(勘定科目変換プログラムを事前設定)から選び変換される仕組み	同一システム処理
国(省庁別財務書類の作成基準)	発生の都度 (取引ごと)	・官庁会計システム(ADAMSⅡ)において、伝票入力に係る同一画面で、複式情報をあらかじめ絞り込まれた選択肢(勘定科目変換プログラムを事前設定)から選び変換される仕組み(国有財産の購入等については、仮勘定等として仕訳処理しており、期末時に別途決算整理に係る仕訳を実施)	同一システム処理

※1 基準モデルでも、発生の都度(取引ごと)に同一システムでの複式仕訳処理は可能。

※2 仮勘定等に一時的に整理されたものに係る仕訳は、どのモデルでも原則として手作業で処理している。

※3 決算整理に係る仕訳(引当金や内部取引に係る相殺消去等に関する仕訳)は、どのモデルでも原則として期末一括で処理している。